**カード版IGTの素案**

<コインとケース>

・強化・罰に用いるお金は，**「コイン」**とする。1枚が日本語版IGTにおける2500円分。

・コインケースの横一列を**「レーン」**とする。

・レーンは5つに区切られており，区切られたスペースを**「部屋」**とする。

(上記の語はここでの便宜上なので，後で変更してください。)

●以下，作業が必要と思われることを赤にしています。

●とりかかっていることを青にしてます。

・1部屋には，12枚(3万円分)入れる。なので，1レーンには60枚(15万円分)が入ることになる。

・コインケースのレーン横に，どこまでがいくらかおおよそ分かるような指標をつけておく。

・手持ち額(強化・罰によって変動する)は緑，借金額(20万円ずつ借りる)は赤のコイン。

・ゲーム開始時，コインケースには緑80枚(20万円分)，赤80枚(20万円分)をセッティングしておく。

・緑がなくなった時，赤と緑のレーン両方に80枚(20万円分)を追加する。

・赤のコインは，事前に張り付けておくと検査者の負担が減るかもしれない。

　・ゲーム開始時用：12枚×6セット，8枚×1セット

　・追加用：4枚×2セット，12枚×6セット

※プラスチックのコインはボンドでつけると，ややはがれやすかった。はがれにくいはりつけかた（アロンαとかのほうがいいのか？いったん傷をつけてからはりつけるか？etc）を探す。**→福井さんにお願いしました（5/15）**

※12枚をはりつけても「部屋」に問題なく入るかチェック。**→福井さんにお願いしました（5/15）**

<コイン換算表>

・被験者が各デッキに対してどれほど引くか分からないので，コイン換算表は，紙を移動する必要がないように一枚にまとめられると嬉しい。(A4では難しい…？)別添。

※コイン換算表には，賞罰の金額が残っているものがよいように思う（追加・削減コイン一覧（チェック用）というシート。カードに書いてある情報と試行数があっていることを確認するために。

・115000円(125000-10000)については，3部屋分＋10枚を減らすことが分かるように換算表に明記しておくのはどうでしょうか。換算表にスペースがあれば。(ex.3R＆10)

→賞金の金額も残す方向で，原案作成しました。換算表のシート1をご参照ください。

荻原(5/16)

・被験者がカードを引くと，カードに強化または強化・罰が記されている。検査者は，コイン換算表に基づいてコインの追加・除去を行う。それと同時にコイン換算表に印をつけていき，どのデッキがどこまで引かれたかわかるようにする。

【最も損失したとき】

・~~ゲーム終了時，最も損失している時は【Aを5回，Bを94回，CorDを1回】選んだとき。~~

~~→-310000+5000+5000=-300000~~

~~(Bデッキの累計獲得が最低になるのは94回目の-310000。残りの6回は，Aの6回までの最低累計獲得である5000(5回目)と，CorDの最低累計獲得である5000(一回目))~~

・ゲーム中，最も損失するときはBの94回目の選択後(-310000)。

・緑のコインがなくなって借金をすることは一回なので，赤のコインは最大160枚あればよい。

【最も獲得したとき】

・ゲーム終了時，最も獲得している時は【Aを4回，Bを8回，CorDを88回】選んだとき。

→25000+80000+247500=352500

(Aデッキの累計獲得が最高になるのは4回目の25000。Bデッキの累計獲得が最高になるのは8回目の80000。残りの88回は，CとDの組み合わせが最大値をとる247500)

(前回の計算では，Aデッキで初めての罰を受けるまでで計算していたのですが，一度の罰の後に最大を迎えることに気づきましたので，結果が変わっています。)

・最も獲得したとき，コインケースのレーンには緑のコインが141枚追加される。

**・開始時の借金額(80枚)と合わせると，最大で必要な緑のコインの数は221枚。コインケースは4レーン必要となる。**

**※4レーンをつなげる方法の考案と作業。→福井さんにお願いしました（5/15）**

※これまでゲーム終了時のコインの最大・最小を考えていたのですが，ゲーム途中で最大・最小になるときのことを考えるべきでした。最小は上記で答えが出ました。最大はおそらくこのままで大丈夫だと思うのですが，見落としがあるかもしれません。ただ，もし変わるとしてもCorDの選択の最大値なので，5000円(2枚)単位です。もう少し考えてみます。

・手続きの作成

→素案を作成します。荻原(5/16)